



日野自動車 中期経営計画

(対象期間:2012~2014年度)



2012年4月26日
日野自動車株式会社
代表取締役社長
白井 芳夫

日野自動車 中期経営計画

(対象期間:2012～2014年度)

- 1 . はじめに
- 2 . 日野の戦略
- 3 . 日野の戦略：生産
- 4 . 日野の戦略：販売
- 5 . 日野の戦略：環境技術
- 6 . 中期経営目標



将来予測・インサイダー取引について

本資料には、当社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。

インサイダー取引に関するご注意:

企業から直接、未公表の重要事実の伝達を受けた投資家(第一次情報受領者)は、当該情報が「公表」される前に株式売買等を行うことが禁じられています(金融商品取引法166条)。

同法施行令により、二以上の報道機関に対して企業が当該情報を公表してから12時間が経過した時点、または、証券取引所に通知しかつ内閣府令で定める電磁的方法(TDnetの適時開示情報閲覧サービス)により掲載された時点を以って「公表」されたものとみなされます。



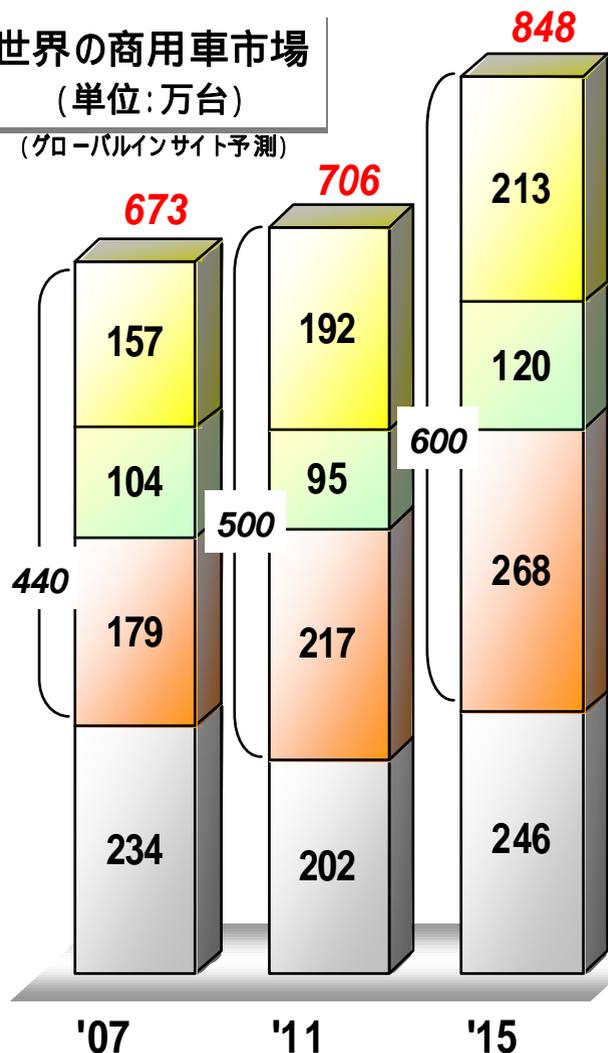
1) 世界の商用車市場

GVW3.5トンの積載系車両の伸びが大きい

世界の商用車市場

(単位:万台)

(グローバルインサイト予測)



GVW '07 '15 競合他社 トヨタグループ

GVW	'07	'15	競合他社	トヨタグループ
15トンの超	1.4倍			
6トンの～15トンの	1.2倍			
3.5トンの～6トンの	1.5倍			
2トンの～3.5トンの	1.1倍			

合計 1.3倍

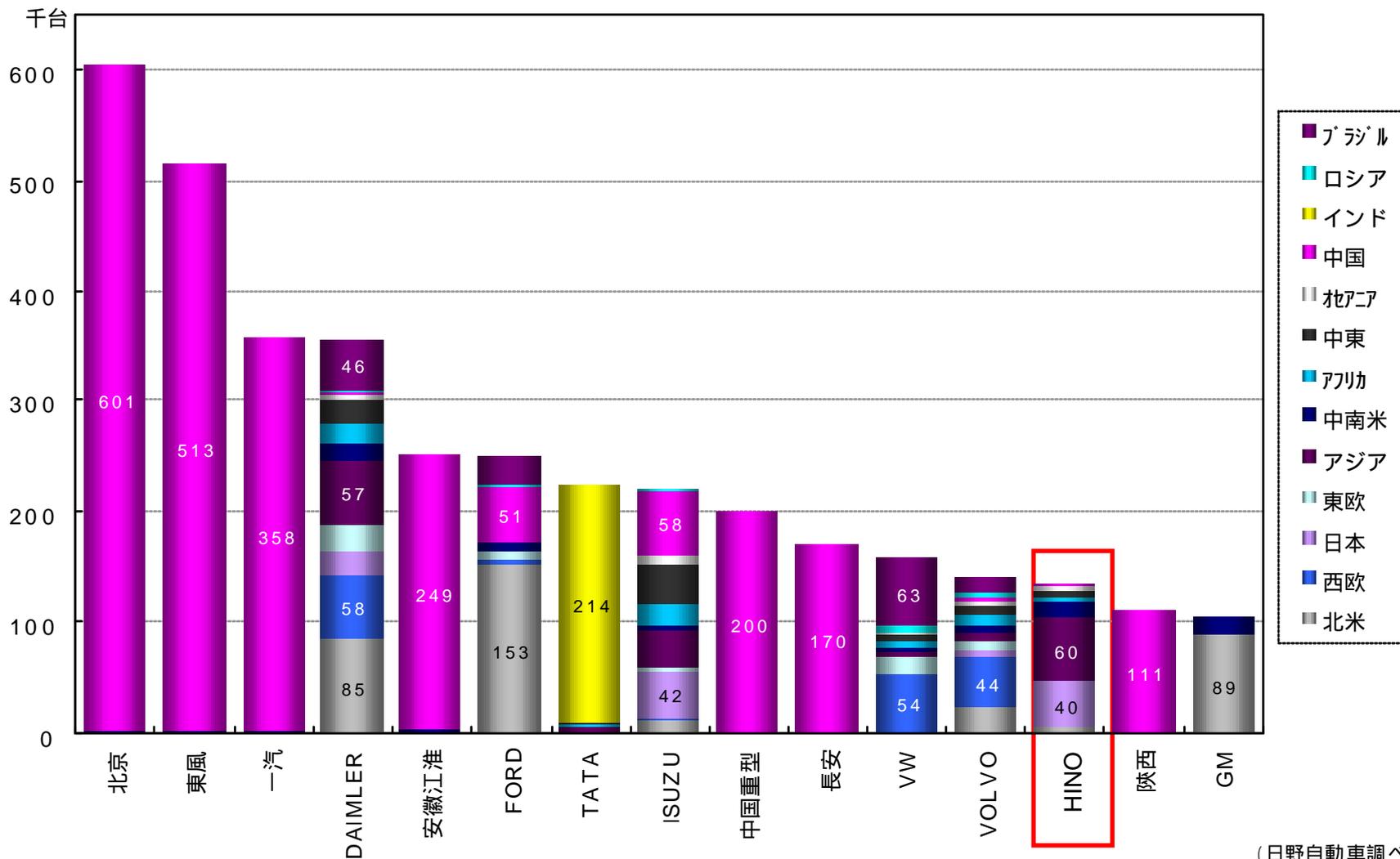
日野ブランド
トヨタブランド

1. はじめに (日野を取り巻く環境)



2) メーカー別販売台数実績 (GVW3.5ト以上)

【主要グループ・ブランドの地域別販売台数(10暦年 トップ15)】





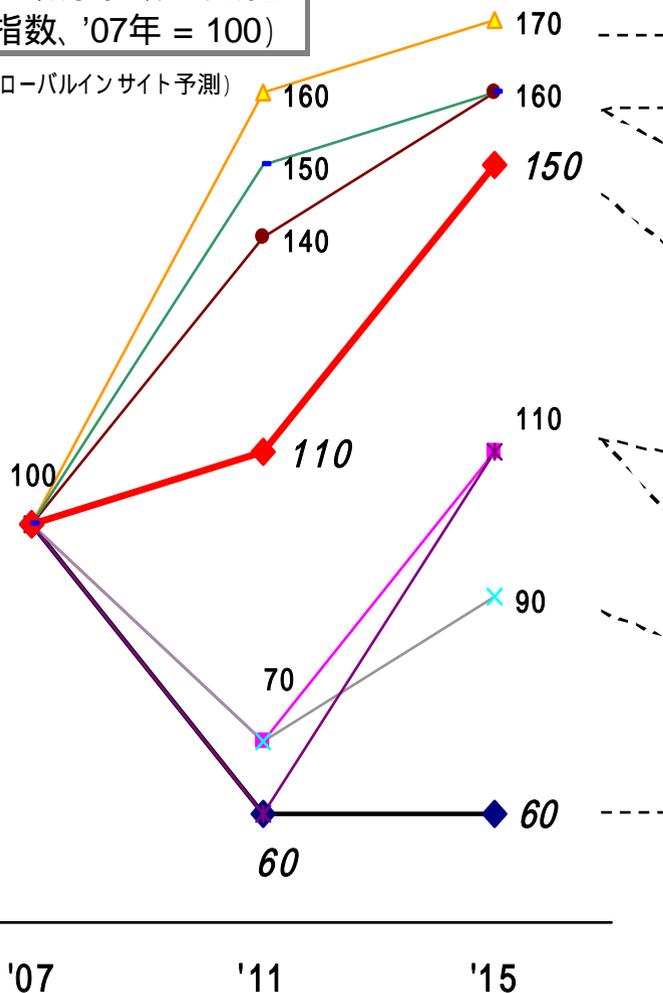
3) 地域別市場の伸びの状況 (GVW3.5ト以上)

新興国のうちでも アセアン地域における伸びが顕著

地域別市場の変化

(指数、'07年 = 100)

(グローバルインサイト予測)



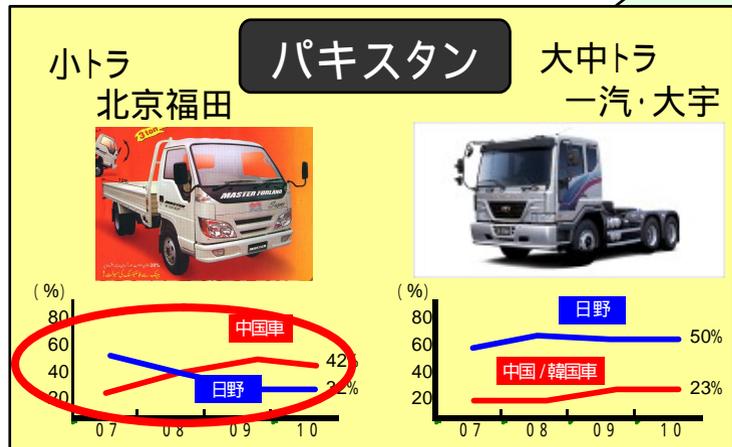
市場の優先順位

中国	中国メーカーの市場	JVで着実に推進
インド	インド・欧州メーカー市場	個別に状況を見極め
ブラジル	欧州メーカー市場	
豪亜 中南米 アフリカ	日本メーカーが強い 今後各国メーカーの競争が激化	最重点市場 :リソース集中
ロシア	欧州メーカー市場	極東で展開
北米	北米(欧州)メーカー市場	事業基盤を確立
欧州	欧州メーカー市場	個別に状況を見極め
日本	日本メーカー市場	ホームマーケット :事業収益の最大化

1. はじめに (日野を取り巻く環境)



4) 競合環境の変化 ~ 中国・韓国車のアセアン進出 ~



中国・韓国メーカーが新興国での販売を拡大

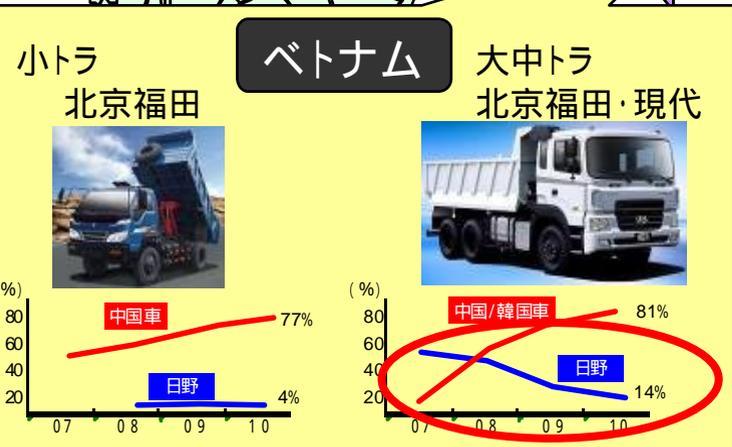
パキスタン(小型)、ベトナム(大中型)において既に日野のシェアを逆転



日野の基盤市場へも進出

<タイ>
韓国・中国製 大トラCNGが参入
(10年実績 260台)

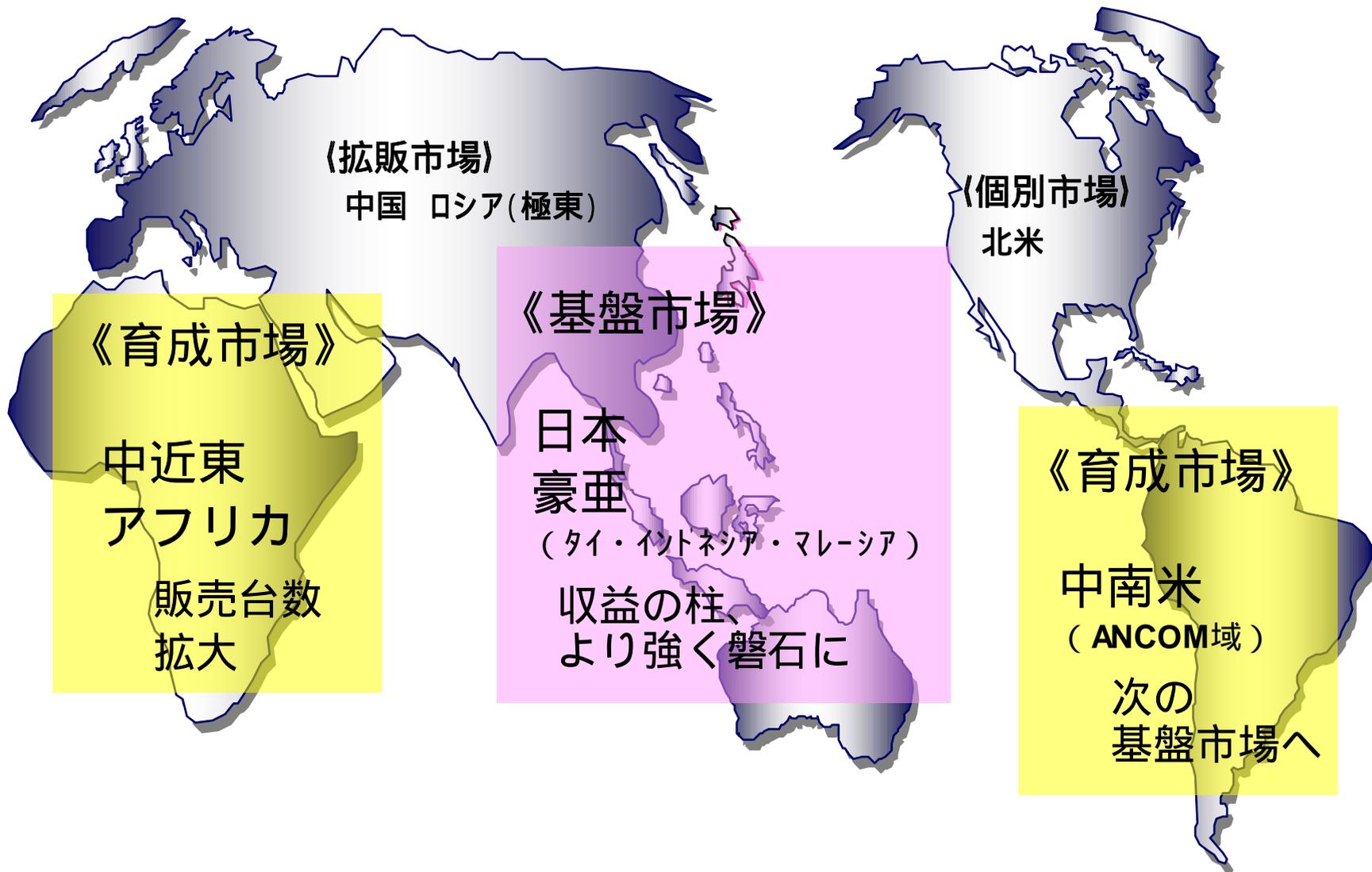
<インドネシア>
中国車が競合となる商談が増加傾向 (09年頃以降)





1) 世界市場の区分と位置づけ

経営資源の集中配分で磐石な基盤を確立





2) 適格商品の提供

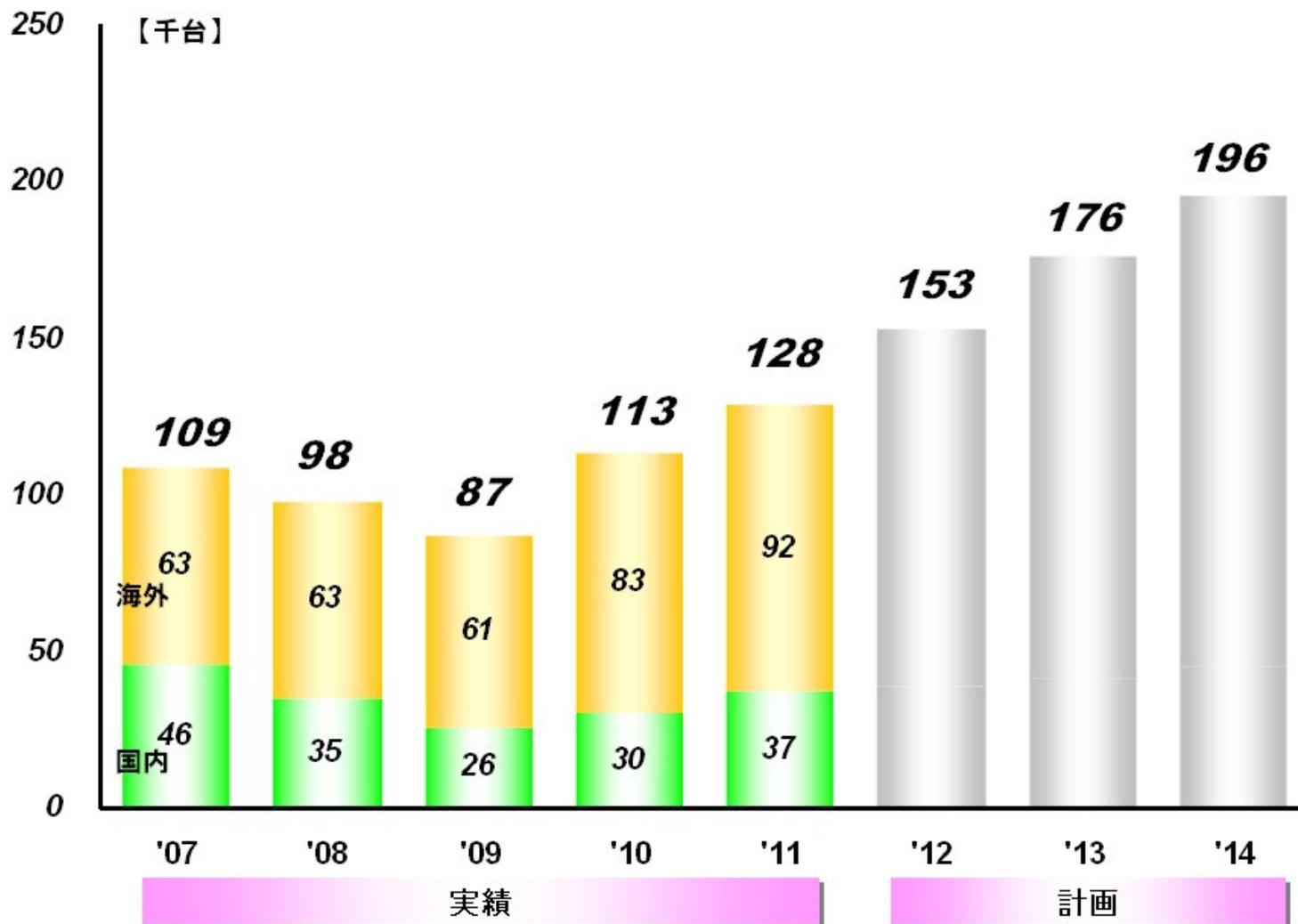
お客様の期待に合わせた商品・サービスの提供
～ 開発・生産・販売・サービスの体制を刷新～





3) 日野の販売台数見通し('12~'14年度)

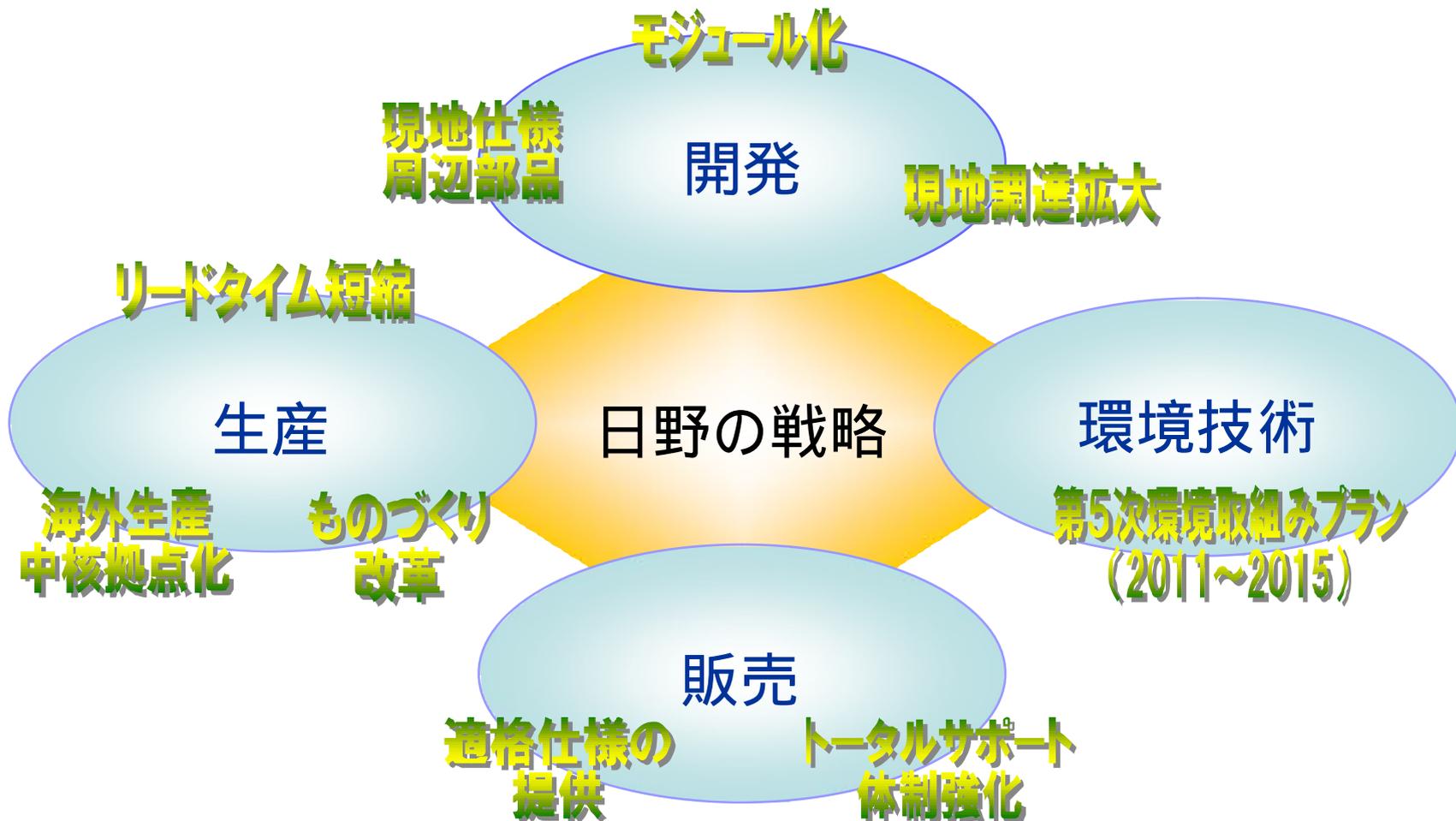
新興国商用車市場の伸びを背景に販売台数は大きく増加





4) 開発・生産・販売別戦略

開発から生産、販売まで ビジネス構造を改革
～ 非価格競争力向上により基盤市場での優位性強化 ～





1) 地域中核生産拠点化の考え方

海外販売台数の増加に対応する生産供給体制の構築

- ・能力増強
- ・現調率増
- ・モジュール化
- ・ブリッジ生産

アジア: 海外中核拠点化 (現地必要分は原則現地化)

インドネシア・タイの生産拠点拡充

(既存ライン能増、モジュール加工・組立ラインの新設)

日本: 国内・その他国向け & アジアでの能増をサポート

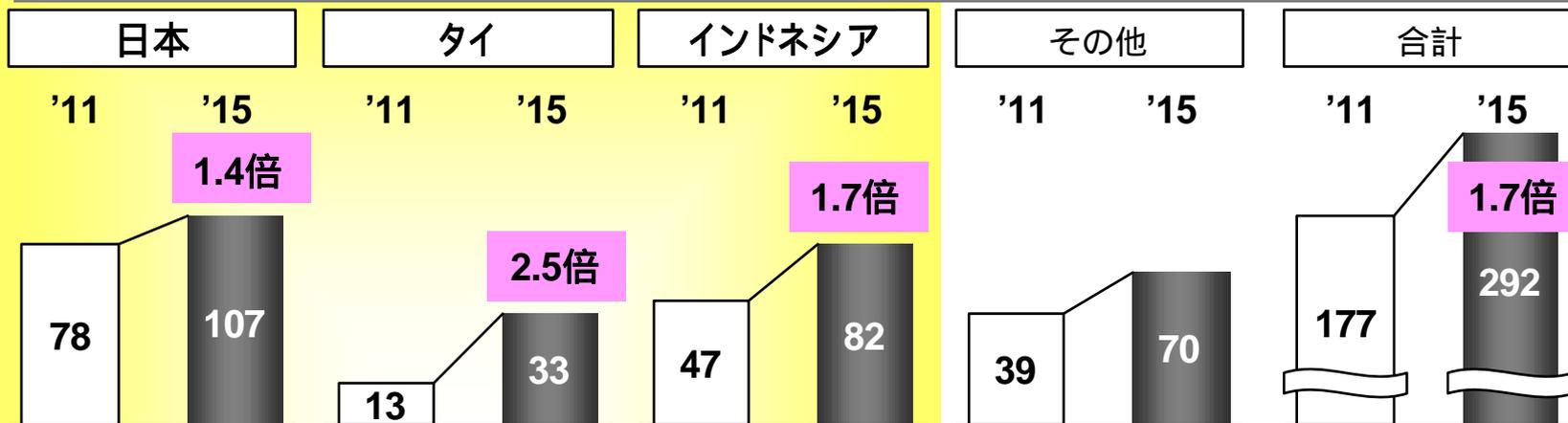
国内工場の工程再編により供給体制増強

- ・車両 = 古河工場(新設)
- ・ユニット = 新田工場(拡張検討)

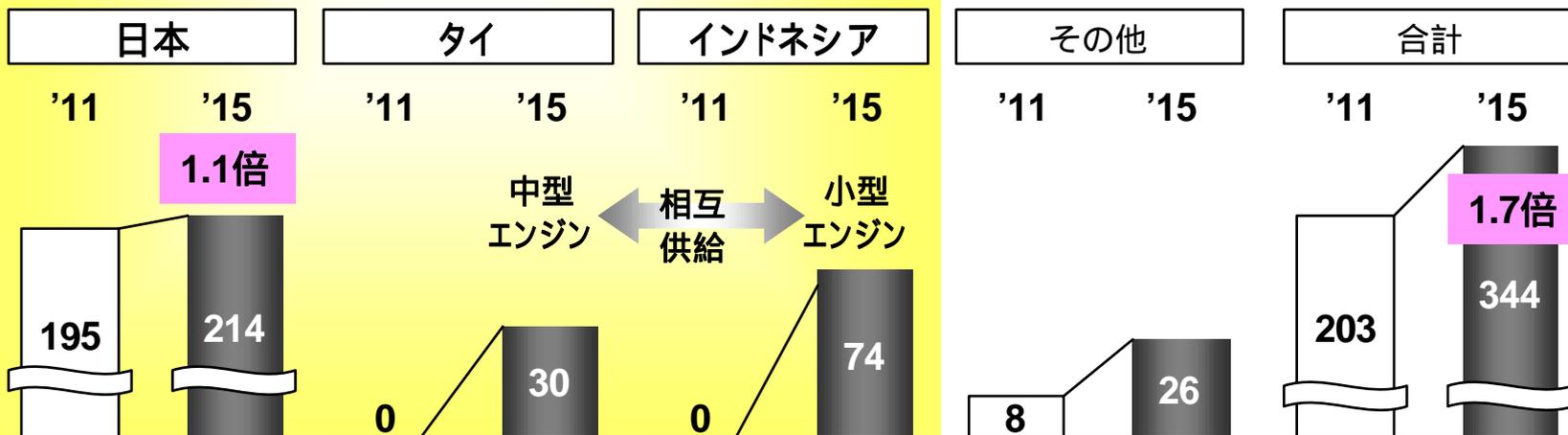


2) 車両・ユニット生産供給体制の概要

車両： 需要地により近いところで生産 (単位：千台、組立てベース)



エンジン： 能増は現地をメインに実施 (単位：千基、機械加工ベース)





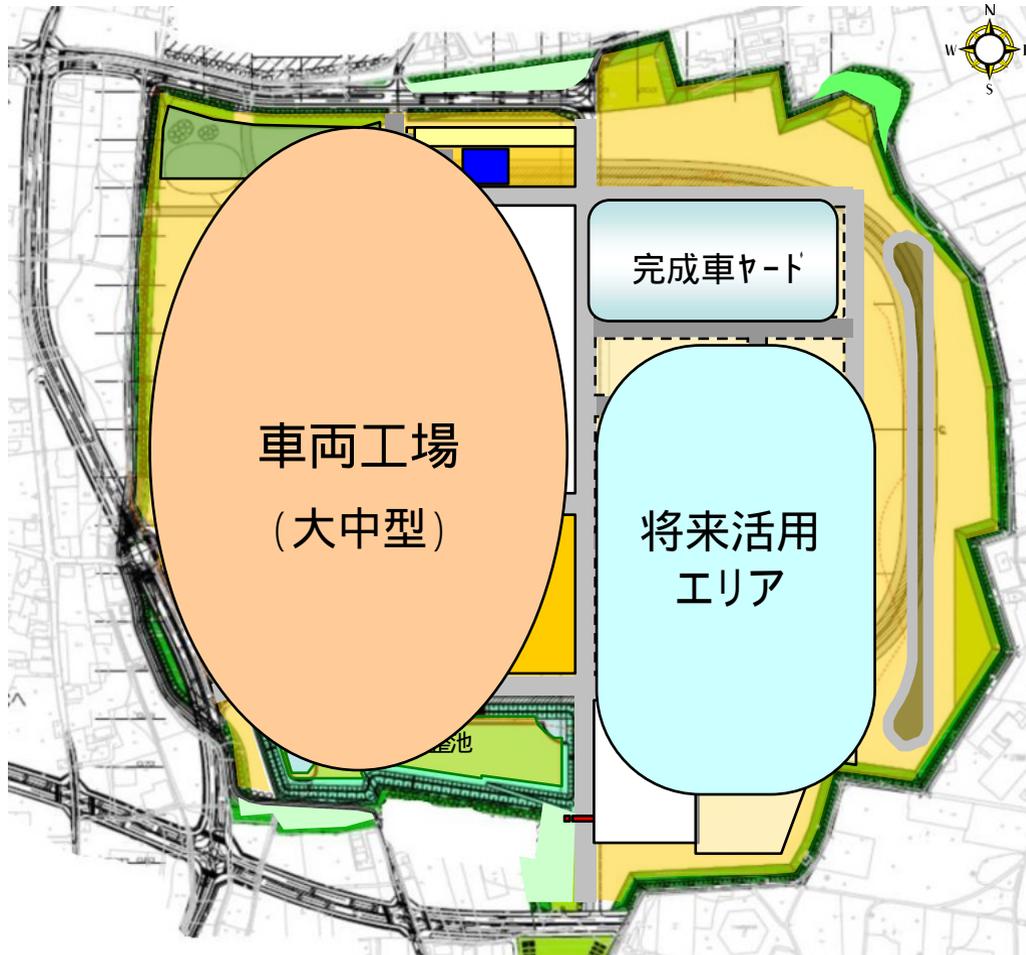
3) グローバル生産体制の構築: 各工場の考え方と役割

国内: 車両系(大中型)は古河工場に集約、ユニット系は新田工場に集約
 海外: タイ、インドネシアで地域中核生産拠点化

	考え方	役割
古河工場	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 大中型車両工場 ➤ KD輸出基地 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ モジュール化による大中型完成車の組立 ➤ アクスル・プロペラシャフトの組立 ➤ KD梱包拠点
新田工場	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ユニット工場 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ エンジン、トランスミッション、デフキャリアの一貫生産(鋳造・機械加工・熱処理) ➤ 内製粗型材の海外への供給拠点
インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 新興国向け小型トラック(市場適格モデル)の生産拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ アセアン域内小型エンジン機械加工・組立拠点 ➤ 小型トラック(新興国向け市場適格モデル)生産拠点 ➤ 自国向け中型車両組立
タイ	<ul style="list-style-type: none"> ➤ アセアン域内の中型トラック中核生産拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 中型エンジン機械加工・組立拠点 ➤ デフキャリア組立拠点 ➤ 中型・小型トラック車両生産拠点



4) グローバル生産体制の構築：古河新工場建設



敷地面積660千㎡：200千坪



5) グローバル生産体制の構築：古河新工場建設

< 古河新工場 KD工場の建設状況 >





6) 各国工場の相互補完関係 (ブリッジ生産)



<エンジンのブリッジ生産>

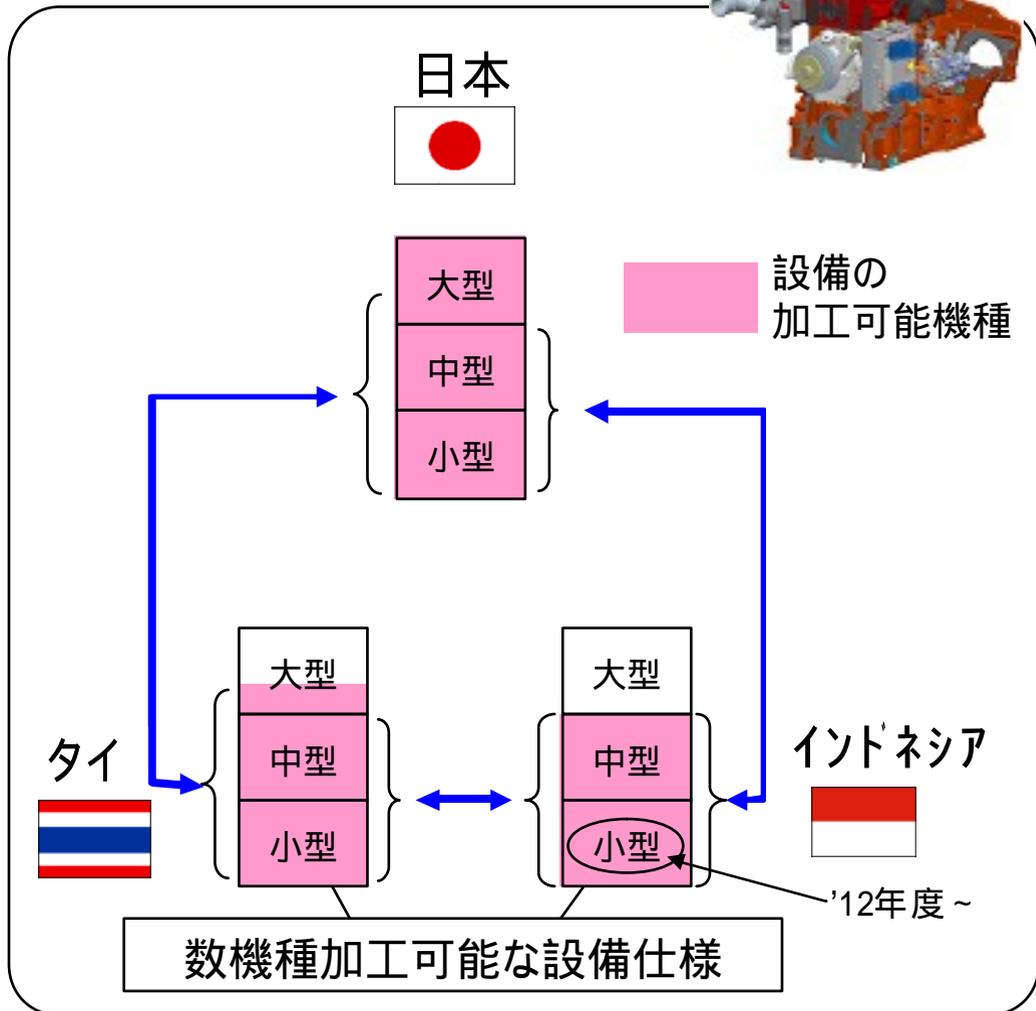
【現在】
 エンジン部品の機械加工は
 日本でのみ対応



【目指す姿】
 日本 × タイ × インドネシア
 3拠点相互生産補完

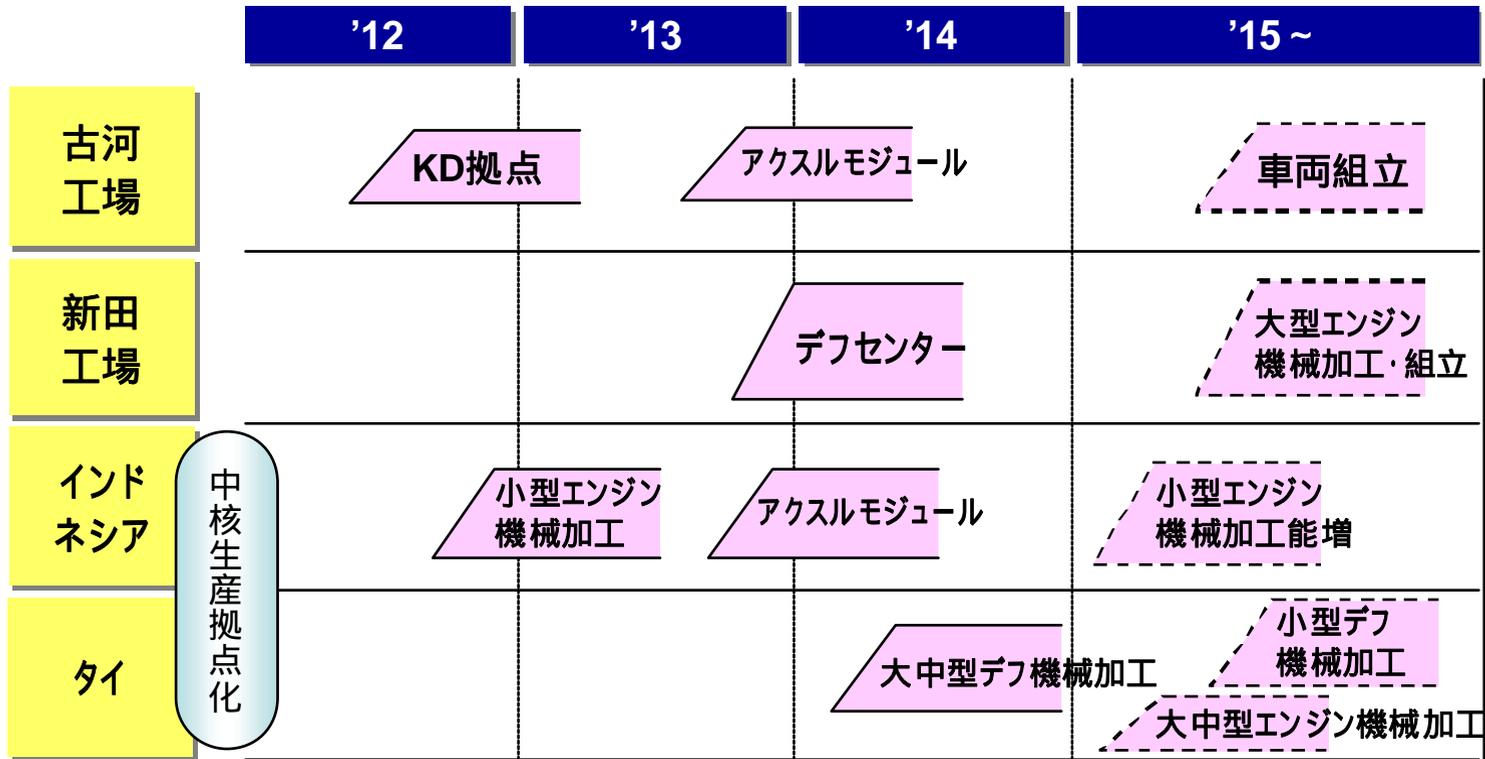
↓

生産量変動への対応
 災害等のリスクへの対応
 現地向けを現地化し、
 為替リスク減





7) グローバル生産体制構築スケジュール



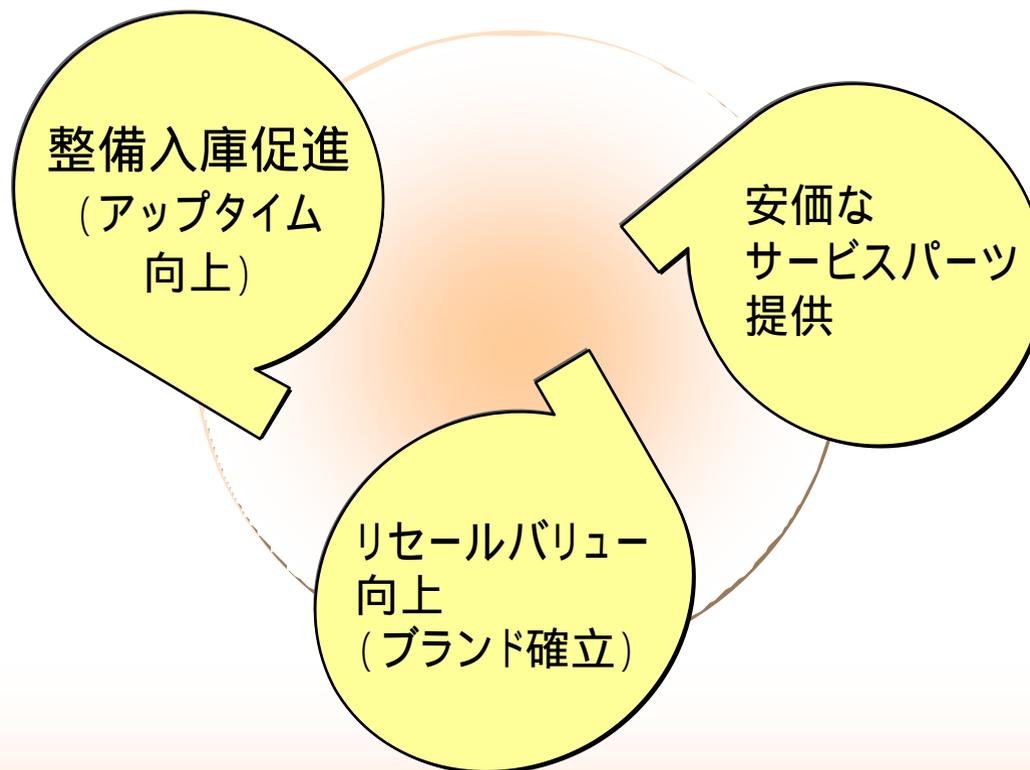
設備投資の考え方

- ・設備の小単位化(セル化)推進による 小刻みな投資
- ・汎用ライン化推進によるフレキシブルなライン作り(生産量変動に対応)
- ・長いタクトを利用した新技術を導入し、投資削減



1) 販売・サービス体制の強化

『日野らしい売り方・トータルサポート』で非価格競争力を強化



< 支えるための体制づくり >

- 整備拠点の増強(国内・海外)
- 消耗品サービスパーツの供給体制強化(含・グループ内製) 等



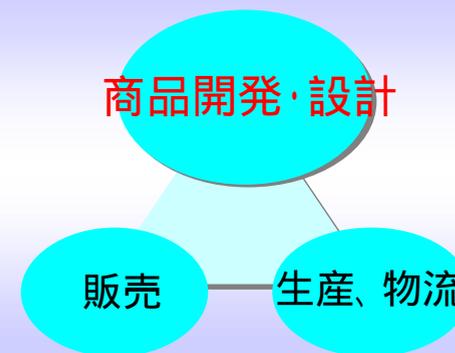
1) 第5次環境取り組みプラン (2011 ~ 2015年度)

目指す姿

事業全般における環境との調和を実現 (右図)



商用車メーカートップレベルの環境経営



< 開発・設計分野での取り組み >

- ・燃費向上や各国排ガス規制等に着実に対応
- ・高まる環境意識・ニーズを踏まえ、将来に向けた技術を研究開発



電気エネルギー車の研究開発: PHV、EV、燃料電池
代替燃料対応車の研究開発: GTL、バイオ燃料



2) 直近事例の紹介

日野デュトロ プラグインハイブリッド

2011年東京モーターショーにて世界初出展



日野ポンチョ 電気バス

墨田区、羽村市で2012年3月より運行中。



非接触給電 ハイブリッドバス

モーターショー開催に合わせ、
2011年12月2日(金)～18日(日)に
東京ビッグサイト～豊洲駅で実証運行を実施。



羽村市「はむらん」



(写真: 羽村市提供)

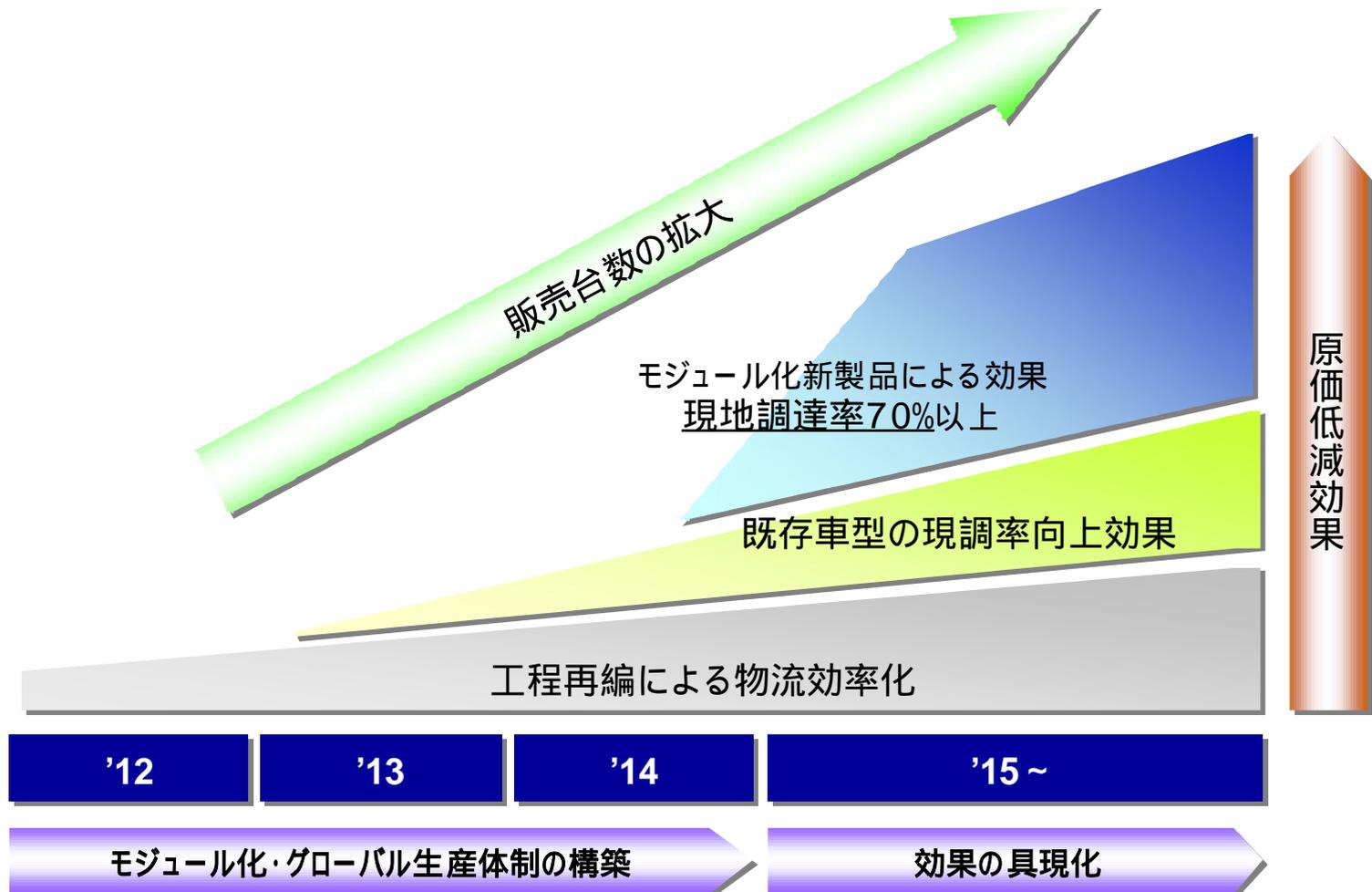
墨田区「すみりんちゃん」





1) 日野の戦略と収益との関係

中期計画の着実な実行により **2015年度以降**の効果を具現化





2) 中期経営目標値

